



No. 20 九 月 号

発行所 東京都中央区築地3~1 (本願寺内) 全日本仏教会 電話(54)0313番

発行人 岩野真雄 編集人 高橋忠雄 印刷所 栄昌堂印刷工業株式会社

購読料 一部12円 1ヶ年分 150円(送共)

新秋の教界に贈る

全仏の第三回中央講習会

九月廿八、廿九、卅の三日間全日仏によつて才三回中央講習会が開かれる。才一回は昭和廿九年全日仏発足記念として教界各部門の足並を整え、才二回(卅年)は指導講座による研究討議を主に行はれてきた。その後をうけ、本年は仏教の根本理念と現在の教界が求めている世相の中の切実な諸課題との関連性を講究することに重点を措いた。何事も信念の基礎、指導の理念なくしては行なはれない。深刻にして広汎な仏教の教理思想はあらゆる現実、指して正しき在り方を示し、赴くべき方向を与えるもの、従つて時々刻々にその道が明にされてゆかねばならない。本年度、才三回の講習会の内容は、この望みによつて陣容を依嘱したもので、即ち仏教原理と現下の諸問題を総観すると共に、平和、原水爆問題、科学、新興宗教、仏教の世界的伸張の大勢等が主題として講せられ、更に討議懇談も加へられるので、現下の仏教界が内外への組織的伸張が望まれてゐる時だけに、一つの有力な進路を作るものと信じてゐる。講習会の内容は別記の通りで、多数の参加者が予想される。

本年の講習会は彼岸過の好季に三日間、朝九時から五時まで充実した講義が行われる。先ず駒増永教授による「仏教の基本原則」と現下の諸問題」は現代の我々に課された諸問題を明らかにし、今日における仏教者の生き方を示唆せんとするものである。次に仏教者の間では、この数年来大きな問題とされ現在漸く一般社会的にも問題視されてきた新興宗教に於いて井ノ頭病院院長元吉博士の「新興宗教にみる精神障害」によつて精神医学の立場からの説明が行われ、この似而非宗教の害悪を客観的に実証され、常日頃、この種の宗教現象について深い関心をほらい、分析研究を進めておられる宗教問題研究所長浜田本悠氏は「新興宗教の特質と仏教的批判」と題して批判的見解を述べられる。また過ぐる全日本仏教徒会議において問題として取り上げられ、現代人類の最大関心事といわれる平和問題については、東大名誉教授宮本博士の「仏教における平和の原理」によつて、仏教者の同問題に対する主体的立場をはつきりさせると共に、日本原水爆禁止協議会事務総長として平和運動の才一線で活躍中の法政大学安井教授が、「平和運動の現状とその意義」と題し、同教授最近の歴訪による世界各地の同運動、特に宗教者の平和運動について広く深い見地からの講述がなされる。更に同問題にも関連して、最近のアジアの動きを中心とした「世界事情と日本の立場」について朝日新聞論説委員、調査研究室長の福井文雄氏による講義も行われる。我々は日本仏教の伝統の中に常に新しい生

命を見出し、仏教の興隆を期さなければならぬが、同時に世界各地で仏教がどう研究され、どう扱われているかということを知るのも、我々の精進にとつて示唆に富むことであると思われる。こういふ意味から東大中村教授を煩わせて「世界の仏教研究の現勢と将来」についての講述が予定されている。また文部省の福田調査局長の帰朝土産である「最近のヨーロッパ宗教事情」も他山の石として傾聴に価するものと期待される。更に東大理学部末綱教授は自然科学者の立場から仏教についての見解を表明すべく「菩提心について」と題する論述を行われる。最後に、最も現実的な問題として、保守革新の両党代表者に、それ〴〵当面の問題と両政党的理想社会について聴くこととした。現代は我々の好むと好まざるにと拘らず非常に政治的な社会と言われる。現代は我々が政治に干渉することを意図しなくても、政治の方が我々に干渉してくるのだと言われる。とすれば、この問題についても、両政党的代表者を通じて、はつきりした認識をもち、それらに対する我々の見地を確立しておくことは必要なことと思われる。このため自由民主党は副幹事長の中曾根康弘代議士、日本社会党は政策審議会事務局局長の成田知己代議士をそれぞれ派遣するとの回報を得ている。以上、三日間に亘る講師を紹介したが、何れもそれ〴〵の部門の指導的諸家であり、全仏当局ではその成果をより広範に深く浸透させるため多数の参加者の来会を期待している。

タイ国で来年仏紀大祝典挙行  
タイ国では来年の五月十三日のウエサーカ祭を中心として五月十二日から十八日まで王城前広場に於て仏紀二千五百年の大祝典を開催する事になった。なほ同祝典、中心行事は十三日のウエサーカ祭に行う事になつてをり、日本を含めた近隣仏教国及各種仏教団体代表が招かれる事になつてゐる。

第三回中央講習会

趣 旨

現下の仏教界に課せられた問題は、先づ仏教の理念によつて仏教界に関連ある切実な事項を解明し、宣揚するにある。平和理念の実現、科学との関連、新興宗教への批判世界における仏教の大勢、政治的現実的方向等を選んだ本年度の講習会はこの仏教界の課題に充てんとするもの。乞ふ多数聴講の士を推薦派遣せられんことを!

記

期 日 九月二十八、九、卅日の三日間 (毎日午前九時~午後五時)  
会 場 東京築地本願寺 講堂  
参 加 者 各宗派、都道府県市町村仏教会、  
定 員 三百名  
申 込 九月二十五日までに参加費 三百  
宿 泊 五十円を添へ本会宛申込のこと  
希 望 者 は 実 費 (泊一食付六百元)  
で 扱 います 予め御申越下さい

講 師 (上記記事参照のこと)  
なほ希望者には講習会要項をお送りします

全日本仏教会

東京都中央区築地三ノ一  
振替(東京)五九五四七番

国民会議を結成

沖繩問題解決の運動を組織化

去る七月四日の国民大会で沖繩問題解決に至るまで強い団結のもとに国民運動を展開することが決議され、その後数回の実行委員会が開かれたが、八月十六日の委員会沖繩問題解決国民連絡会議が結成され、全日仏も単位団体としてこの運動に協力することになった

# 三笠宮殿下 歡送会盛大に開催

## セイロンの仏紀・建国祝典に参列

去る八月十六日夜八時十六分、セイロンに於ける仏紀及び建国二千五百年祭典へ我が皇室を代表して出席される三笠宮殿下御夫妻一行は関係者多数に見送られ空路羽田を出発したが、それに先立ち八日午後四時から築地本願寺本堂に三笠宮殿下を迎え、全仏主催による「歓送の集ひ」を盛大に開催した。歓送会は初め北島総長の挨拶、浅草本願寺合唱団の聖歌斉唱、長井副会長の三帰依文導唱があり



〔写真〕 歓送会場の築地本願寺本堂で挨拶される三笠宮殿下

終つて椎尾副会長が大谷会長に代つて挨拶した。次いで駐日セイロン大使フオンセカ氏は今般殿下御夫妻が日本皇室及国民を代表され我が国の祝典に参加下さる事は深い感謝と感激に耐えない、と挨拶されついで、殿下は東日本詠歌連盟の奉詠の波の中、本尊に御焼香され、終つて大要別項の様な御言葉があつた。そして満場にとどろく詠歌連盟による讚仏歌

と「君が代」の奉詠の中を北島総長の先導で退場された。なほ十七日午後二時半殿下御一行は無事コロンプボに到着、随行のフオンセカ大使より殿下御夫妻にバンダラナイケ首相夫妻を紹介され、閱兵を終了後メツセージを發表した。

## 日ソ問題 交流問題 南北佛教 国際委員会て協議

### 国際委員会て協議

全仏緊急国際委員会は去る二十日午後一時から事務局に於て各委員出席のもとに開催伊藤史氏座長となり約三時間に亘つて左の問題につき熱心な討議が行はれ夫々有意義な結論を發見せんと務めた。

1、南北仏教交流会との關係に就て  
2日ソ交渉に対する仏教の態度について  
南北仏教交流会との關係に付ては前号で既報の通り仏教青年連合理事であり交流会の幹部の一人である千坂精一氏がビルマから歸つてから充分懇談した結果更に検討しようとする態度であつたが、その後去る七月下旬千坂氏が歸り、更に八月九日東京小石川の両羽会館

### 三笠宮殿下挨拶要旨

今日は特に私の為盛大な会を催して頂き心より御礼申し上げます。

この度私はセイロンにおける仏紀並に建国二千五百年祝典に招かれ、日本の皇室並に政府代表として出席することになりました。御承知の様にセイロン国は古來仏教國であり、立派な文化を伝えて来ております。日本も又古くより仏教をその文化の根底とし、多数の国民は仏教徒として今日まで發展して来ております。特にセイロン国は戦後の講和會議以來、日本に対して非常な友

で正法会の初会合が開かれた席上正法会側と仏青側との強力なる討論が行われたが遂に仏青は正法会に關係しないと云ふことになり、兩者の關係は奇怪なる結果になつた。国際委員会の席上阿部全仏國際局長、猪俣仏青委員長、中山全仏常務理事から交々その間の事情について報告説明が行われた。その結果全仏としては現在迄の情況判断から当分本問題に關しては左の通りの見解で暫く静觀をする事になつた。

1、南北仏教交流と云つてはビルマ側の意向は再三の現地側との交渉の結果ビルマ仏教と日本仏教との事実上の交流を図ると云ふ意味でなく、ビルマ仏教を日本国内に伝道して日本仏教をある可き姿に還さうとする意図が極めて濃厚であり、到底日本仏教のよさを研究しとり入れようとの意図はない故所謂の南北仏教の交流ではないこと。

2、南北仏教交流正法会の実体が最初から弱体で、責任の所在が明らかでなかつた処へ、今回の彼等の会合で益々奇怪な言動が表面化し、中心実践団体であるべき全国仏青連合が離脱し(委員長談)更に最も熱心な提唱者でありビルマへも使してパゴダ等の企画者と見られた千坂氏の離脱は愈々これらの人々及この団体の内容に付て疑惑を深め、現在結論を出す事はどうかと思うが全仏がこの会を相手に情を示されたのでありますが、これも同じ仏教をその根底にもつ国民の理解によるものであると思ひます。

私はセイロン國へ参りましたならば、現代のセイロンの実情を見て来るだけでなく古來のセイロンの姿を見て参ります。その契つて来る所以を知りたいと存じます。そして私の訪問が少しでも兩國の親善を深めることに役立つならば幸せであります、そして皆様の御期待に少しも沿ひたいと存じております。本日は本當に有難うございました。重ねて御礼申し上げます。

する事は当分静觀しようとの意見が強い事。3、今回の問題を通じて全仏派遣のビルマ留學生であり乍ら、帰還後正式な会合も、報告会も開催せず尙且その後の連絡指導も余り行わないのは全仏當局の責任である。之が引いては今回の様な國際的名譽を云々する様な結果になつたので、この点全仏當面の責任者は充分反省する要があるとの意見に基き、今後の取扱に更に一段の研究と慎重を期する事になつた。

### 日ソ交渉に仏教的發言を!

#### 南方 仏教 圏にメツセージ發信用意

今回の日ソ交渉に表れたソ連の思想態度は予め考へられていた通り到底日本民族としては考へられない程度の戦勝者として敗戦者に対する強圧的態度を以て臨まれ特に条約無視の在り方に対しては仏教徒としては忍び得ないものがある。吾々仏教徒としては仏教の本義からソ連の行動を糾す國際仏教運動を興す可く而してソ連をして國際正義に反する事を強く反省せしむべく直に國際委に於てメツセージ原案を作成し之を全仏の名に於て世界各国殊に東南亞の仏教諸國に檄を發すべきであると云う結論であつた。全仏事務局に於ては直に之を実践すべく目下國際委員の一二の人に委嘱して書簡の形式で日ソ交渉の現状を各國に訴え、之に対する各國仏教徒の輿論喚起を図る可く着々準備を整えてゐる。

### ジャパントイムス

#### で仏紀記念号

全仏ではジャパントイムス社と接衝して仏紀二千五百年の記念特集号として八月八日附録紙上に日本仏教各宗派の紹介を大々的に掲載し世界各国へ發送した。

### 台湾より留学僧來日の予定

昨年末玄奘三藏遺骨分贈団々長として渡台した倉持秀峰師(埼玉果仏会長)の世話で近く台湾省南投果集々鎮民生路九十七号に住む伝建治氏と云う一學生が大正大學へ入學する為來日する予定になつてゐる。

# 第四回世界仏教徒会議ネパール大会 十一月十五日より一週間に決定

## ユネスコ会議(インド)は二十四日より

仏紀二千五百年を記念して、釈尊の生誕地ネパールにおいて開かれる第四回世界仏教徒会議は目下ネパール国王はじめ国家をあげて準備に忙殺の様相であるが、いよいよ十一月十五日より二十一日までの一週間世界各国仏教代表数百名参集の下に華々しく開催される事に決つた。

わが日本へは代表一五名の派遣方の正式招待状が到着したので代表団派遣について、取あえず加盟宗派、果仏、諸団体あて別項の通り八月十五日付をもつて夫々發送された。

具体的な派遣要綱は左記の通りであるが、外貨の割当が非常に難しく国際局では連日關係官庁と接衝を続けている。

一方同会議の万全を期するため、準備、議案の両委員会も別置して公平な立場から派遣準備を進めて行くことになつてゐる。

現下の世界状況から仏教の持つ役割としてこの世界仏教徒会議の意義は重且つ大でこの会議の成果は世界平和に一大光明をもたらすものとして全世界から多大な関心がもたらされてゐる。

### 才四回ネパール大会

#### 正式代表推薦方依頼の件

今般ネパール国仏教会長アムリタナンド長老比丘より日本代表十五名の招請状が本会あて着信いたしました。ついで下記要綱により右代表の選定を早急に進めることに相成りましたので可然御推薦の上外貨申請の必要上八月末日までには是非御報告相成りたく仏紀二千五百年の意義ある大会の成功をもたらず為特段の御協力を御願ひ申上げます。

#### 記

##### 一、会期

十一月十五日より二十一日迄但しインドのユネスコ会議の日程と関連がありますので日程が多少変更される予定である。

##### 二、旅費

概算 三〇万円余(航空運賃その他)

##### 三、代表詮衡の順序

1. 各宗派、各加盟団体の代表者の推薦書二通と本人履歴書二通を八月末日迄に提出する。  
2. 提出された代表の報告に基き本会においてネパール大会準備委員会に於て内選する。  
3. 最終的には常務理事会に於て決定する。

##### 四、外貨について

インド及びネパールの両大会に出席する日本代表団に就ては一般の希望者が予想されますが、一般外貨の割当が非常に困難である為外務、大蔵、文部等の各省へ目下内交渉を進めて居りますが最悪の場合は人員の制限が考へられますので予め了承下さい。但し最善の努力をして居ります。

##### 五、代表選定の條件

1. 人格、思想共に日本仏教会を代表するに足る人である事。  
2. なるべく語学が出来る事。  
3. 全一仏教運動に協力し義務を履行している宗派団体の推薦者である事。

##### 六、仏蹟参拜者について

若干の会議オブザーバーを兼ねネパール、インド仏蹟参拜者を募集するが手続等一切正式代表の場合に準ずる。

##### 七、議案及びその他渡航手続

議案は議案審査委員会及び代表団によつて作成するその他渡航に關する一切の手続は代表者に決定次才本人に通報する。その他詳細に就ては国際局宛照会相成りたい。

### ネパール大会に備へ

#### 準備 両委員会設置 議案

全仏では本年五月の比叡山大会の才三部会において石川存静氏から提案によつて、今秋十一月ネパールに於て開かれる才四回世界仏教徒会議の日本代表団派遣にあつて準備委員会及び議案委員会の設置が決議され、其の後事務総局では国際委員会、常務理事会等にはかり承認を得たので下記の通り夫々委員を依頼し万全を期することになつた。なほ両委員会は九月上旬才一回が開催される予定である。

### ネパール大会

#### 日本代表派遣準備委員

佐々木泰翁、重永潜、小松淨祐、神田尙順、鳥居敬善、白幡静憲、浜田本悠、米山久、猪俣興一、伊藤述史、中山理々、及事務局長各局長各部長

#### 同 議案委員会

増永露鳳、石川存静、長岡慶信、栗本俊道、雲藤義道、船口暉子、中山理々、静永純之、及び事務局長、各局長、各部長

### インド副大統領来日決定

#### 仏教会で大歓迎準備

熱心な仏教徒として印度大善提会の議長であり且世界信仰同胞会の事実上の中心者であるインド副大統領ラダクリシナン氏は来る十月一日才十回世界信仰同胞国際会議が日本に於て開催される為之に出席すべく来日の事が決定した。予定としては一日羽田着、九日離日される為之が歓迎委員会が結成され全

仏会長も代表委員として委嘱されたが更に之が細部計画を樹立すべく去る八月廿一日午後東京のクラブ関東で委員会を開催種々具体的準備を進めた。目下の処細部決定は今暫らく経つてから決定されるが東京に於ける歓迎会後来る十月七日午前京都に於て全仏が中心となつて各界合同の歓迎大会が盛大に開催される筈で全仏本部及び同関西事務局で目下立案中である。

### 中国仏教協会より招待状

過日中国仏教協会秘書長趙樸初氏より全仏大谷会長あて来る十一月か十二月に親善仏教使節として十名前後の日本仏教徒を招きたい旨書簡がとどいた。全仏としては十一月頃は丁度ネパール及インドに多数の代表を送る事になつてゐるので、来春一月頃に同代表を派遣したい意向である。

### 游雲山女史南画展盛況

去月初旬より来日中の中国女流仏教画家游雲山女史の南画個人展覧会が去る八月廿四日から産業経済新聞社内サンケイホール画廊で日本仏教讚仰会(理事長中山理々師)の主催全仏、全日仏婦連、産経時事、中国大使館等の後援の下に開催された。出展作品の内、特に同女史がインド仏蹟参拜時に其の仏跡を画いた墨筆画はすばらしいものと好評を得ている。なほ開期は廿八日まで行われたが連日多数の仏教徒を始め各方面の文化人が来観して非常に好評であつた。尙游雲山女史は嶺南芸術大家高劔父の内弟子であり、原籍は広東省南海果、中国絵画文章に長じてゐるだけでなく仏教学哲理の造詣も深い。女史は現在香港の雑誌「源泉」の創設者であり編集局長を兼ねてゐる。曾つて印度国際大学美術教授となり、現在も香港仏教宝觉中学校の美術教師と雲門美術研究班の指導教師を兼ねてゐる。

